

令和6年度 岡山県生涯学習センター運営協議会 第1回会議議事概要

日 時: 令和6年7月2日(火) 10:00~12:00

場 所: 岡山県生涯学習センター 講義棟1階 会議室

1 開会

2 会長・副会長の選出

○委員互選により、福島会長、越宗副会長を選出

3 議事

(1) 太陽の丘公園遊具整備事業について

○出席委員全員で「太陽の丘公園」及び「交流棟2階」の現状等を確認するため、現地見学

○事務局及び業者より、資料に基づき説明

(委員)

子どもたちの意見を聞いて考えているのはとてもいい。一方で、多数決的に決めていることで聞き漏らしている意見があることが気になる。障害がある子どもでも遊べる部分はどこか。

(業者)

立地的な難しさもあるが、介助があれば一緒に遊べるものになっている。

(委員)

エントランスのスロープは付けるのか。

(業者)

付ける予定はない。

(委員)

車いすの人は入れないということか。

(事務局)

交流棟2階にエレベーターで上がり、渡り廊下を行くと、恐竜の前までは行ける。

(委員)

県の施設として、ユニバーサルデザインの配慮がないのは残念。

案としてあった、車いすで遊べる砂場など何か工夫があればいいと思う。

(会長)

遊具も重要だが、車いすやベビーカーなどを利用している人のアクセスにも配慮が必要。

(委員)

安全性の配慮について、今ある樹木はどうするのか。

(業者)

遊具の安全性を考えた際に、遊具の周りの木は伐採する。木があるところは木陰として使う。

(委員)

視界についての配慮。視界の確保。死角はできないか。

(業者)

この公園での死角は限界があるが、ロケットの位置から見るとそのエリアの全体は見渡すことができる。

(委員)

動線について。プラネタリウムとのつながりは。

(事務局)

公園からサイピアに向かう通路はあり、今のところ新たな導線の予定はないが、案内板の改修など、今後検討していく。

(委員)

水のテーマ、砂のテーマなど、遊具以外についても考えてほしい。今後の検討課題としてほしい。

(委員)

学校現場の視点から考えると、子どもたちの体力向上、コミュニケーション能力が養われるようなものがあればよい。

(業者)

学校にある遊具は、体力を養うものが多い。センターでは、様々な年齢が遊べるものを設置し、遊具を譲り合って使えるようになっている。また、動線として回遊できるようになっている。

(事務局)

60mのローラー滑り台へは、斜面を登ることになるので体力向上につながる。

(委員)

立地で難しいというのもよく分かる。今後の検討課題として、配慮の必要な子も遊べる場所を別の場所につくことも考えてほしい。今後、使用開始しても、利用者の声を聞く機会を設けてほしい。

(2) 交流棟2階の活用方法について

○事務局より、資料に基づき説明

(委員)

不登校の原因や要因は分かっているのか。

(事務局)

原因を特定することは難しい。最終的には学校で学んでほしいが、社会教育施設もその一助を担っている。

(委員)

わざわざセンターに来るのかなと思う。図書館にも同じようにある。

(事務局)

選択肢が多い方がいい。居場所の1つとしていきたい。

(委員)

本質的な解決にはならないのではないかな。

(事務局)

センターでの取組で解決するわけではない。御津高校のマイプレイス等もされている。

県教委として施策の中での1つとして捉えてほしい。

(委員)

県全体でどう捉えているか。センターがどのような役割を担っているかを説明いただけるとありがたい。

(事務局)

不登校についてレベル分けしてあり、対応の仕方もある。場所を提供する広い目線でみての1つの対策。

(委員)

学習スペースに仕切りは必要か。

(事務局)

仕切りがないと学校のようにになってしまう。学校に行きにくい(困難)子なので、半個室のような状態がいいと思って始めている。

(委員)

国も不登校に限らず、居場所を作ろうとしている。今までは自習を禁止するところもあるなど、公共施設から子どもを排除していた。大きく方針が変わるというメッセージが広く伝わっていない。センターだけでなく、県全体で居場所について広報をしてほしい。

(事務局)

県教委としても打ち出していく予定と認識している。教育庁幹部会等でも、引き続き伝えていく。

(委員)

第3の居場所としての役割から、ボランティア参加へとつなげている事例もある。

(会長)

学校だけではなく、その他の場での活躍の場も必要。

(副会長)

高校生にとっては、落ち着いて学習できる場になっている。居場所があるということを伝えていき、その後、センターの活動に参加するなど展開があるといいと思う。

(委員)

交流棟2階は勉強する場にはなっているが、勉強だけの居場所でもいいのか。会話を控えるところは居場所ではないという考え方もある。私は、閉じられた空間のように感じた。
どういう人たちに来てほしいか、センターの役割を踏まえた上で、今後考えていってほしい。

(事務局)

学習相談員も常駐しており、お互いに配慮できるような空間をつくっていききたい。

(委員)

みんなが共存すると考えると、先ほど見させてもらった雰囲気では難しいと感じた。
センターに「行こう!」と思う雰囲気を作ることも大事。

(委員)

落ち着ける空間になっている。静かすぎて、入りにくいと感じる人もいるのではないかなと思う。
集団が苦手な子、静かな空間が苦手な子もいるのではないかな。そう考えると、モニターの映像だけではなく、音楽を流してもいいのではないかなと思う。雰囲気づくりも大切。

(委員)

図書館とセンターの差別化。センターのしていることを、ホームページで周知をしてもいいと思う。
張り紙も効果的かもしれない。オルゴールなど、落ち着ける音楽はあってもいいと思う。
ソファを設置すると占有する人が出てこないか心配。当事者の意見を聞くことも大事。
使う人の立場になって運営をしてほしい。

(会長)

様々な人の意見を聞きながら、今後進めていってもらいたい。

(委員)

社会教育施設を開放して、多様な学びを提供していく。居場所、心の安定、学力の保障か不登校を改善していくことか、目的によって変わってくる。待つ姿勢だけではなくて、センターからアプローチしていくことも必要になってくるのではないかなと思う。

4 その他

(委員)

今期は委員の数が減り、地域の方がいなくなった。削減の理由について教えてほしい。

(事務局)

以前より5名減としたが、行政と地域(連合町内会長)の方とは、他に意見をいただく機会がある。
一般枠の大学生ように新しい方も増やしており、適正な規模にすることによって、一人一人の意見を伺う機会を増やすことができるのではないかなと考えた。実際に委員の方はどうか。

(委員)

様々な立場の人がいることによって、様々な視点から意見交換ができる。協議会の内容によっては、

委員以外の人の意見も聞けるとありがたい。

(委員)

事前のヒヤリングや情報提供があると安心して議論できる。